

新教養教育研究～新世代に新価値を～

若ければ若いほど、可能性が多くそれだけ不確定なために不安も多くなる。

だから、その解決には実践的で「感性に響く教養」が必要である。

プロジェクトAAF (PJT-AAF, pjtaaf) 主宰

松原伸一 (Arts-ist of Media Informatics)

次の10曲の中で、皆さんの知っているのは、幾つありますか？

Diary (SEKAI NO OWARI), 僕のこと (Mrs. GREEN APPLE), Letter (SHE'S), いつか (Saucy Dog),
愛にできることはまだあるかい (RADWIMPS), MOIL (須田景凪), 脱せ (映秀。), ブルーベリー・ナイツ
(マカロニえんぴつ), ツキミソウ (Novelbright), 水平線 (back number) ※シリーズ1, Ver.3

※感性に響く教養講座のイメージソングのセットリスト (シリーズ1, Ver.3) より。

※この順にプレイリストなどに設定して自動で聴いて下さい。なお、オリジナルソングも時をみて公表の予定です。

もし、1曲も知らない場合は、友人・知人、そして可能なら、お子様・お孫様に尋ねてみて下さい。好みはいろいろだと思いますが、何かが返ってくるでしょう。それは彼らの価値観を知る良い契機となるかも知れません。

上の曲たちは、大人になることの不安、人を愛したいがそれがわからないという現実、同時に、努力しても報われない現実を知り、どのように生きて行けば良いのかという漠然とした不安が根底にあり、そして、時に「神様教えて」と声を発したりもしますが、実は彼らなりにその答えを探しているのです。

教養は単なる知識かも知れませんが、人生の問題を解決する際に機能しないと意味がありません。若い時は不安があります。それは、可能性が絶大なため不確定なことが多く、そのため不安も比例して多くなって、今の自分はどうしたいのかという切実な思いがあるからです。

筆者の立場から見れば、何ともうらやましい限りということですが、Z世代ともいわれる新世代の人たちに新しい価値を教養として求められる時代ではないでしょうか？超多様性の時代なのですから…。

ところで、Diaryという楽曲は、#が5個も付いているので、弾きにくいかなって思いましたが実はそうではなかったと感じています。これはロ長調 (B major) で、カラオケ的に表現すれば、ハ長調のド（1点ハ音、C4）からみて半音下のロ音（シ）が主音となり、5つ全ての黒鍵が音階に寄与します。また、その半音下の調は、変ロ長調 (B ♭ major) で♭が2個なので、これと比べれば少々黒鍵を弾くのが多くなりそうですね。まあ、一般化した場合の確率論ですが…。

そこで、プロジェクトAAF (PJT-AAF, pjtaaf) では、「新教養教育研究」をテーマに、プロジェクト形式で進める新しい実践研究の組織として下記のような活動を展開して参ります。

- ・感性に響く教養講座：NVNG感性教養「ネ森少年の飛翔」を開講
- ・新情報誌：A&C「芸術とコンピュータ」を創刊

詳しくは、Webサイトを参照願います。 プロジェクトAAF (PJT-AAF, pjtaaf) → <https://pjtaaf.com/>

なお、この研究は、JSPS科研費 JP16K04760 (代表研究者：松原伸一) の助成を受けて、2016年度から2020年度までの5年間にわたる成果、すなわち、ICT超活用、AGAA (芸活)などを、感性に響く情報メディア教育などの教育実践に還元するものです。

文献

松原伸一著：人間性に回帰する情報メディア教育の新展開～人工知能と人間知能の連携のために～、開隆堂、2020年2月発行、ISBN978-4-304-02173-2

松原伸一著：芸術とコンピュータ～感性に響くICT超活用～、開隆堂、2021年7月発行、ISBN978-4-304-02186-2